

税の作文コンクールで税金の大切さを表現し 静岡県納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞した

佐々木ゆみさん（中川根中2年・下長尾）

「私と税金」という題名で作文を執筆した佐々木ゆみさん。本年度の税の作文コンクールで「静岡県納税貯蓄組合連合会優秀賞」を受賞した。

「作文は昨年の夏休み前に書きました。生徒たちには作文の題材として『税金』『動物愛護』『交通安全』など、いくつかの候補が与えられていました。わたしは何について書くか迷ったとき、小学生のころ『税の教室』があったのを思い出したんです。税務署の人が学校に来てくれて、税金について分かりやすく教えてくれました。それを思い出して、わたしは税金を題材にしようと思ったんです」と半年前をふり返る。

ゆみさんは「税の仕組みは難しいことが多く、まだ分からないこともたくさんあります。これから少しずつ勉強していきたいと思っています」と語ってくれた。

将来の夢について聞くと「看護や福祉の仕事をするため、大学に行って学びたいと思っています。」

母が看護師をしているので、わたしも人の役に立てるようになりたいと思いました。あこがれなんです」と照れながらもはっきりと答えてくれた。

その持ち前の明るさで、夢に向かってまっすぐに歩んでいってほしい。

「私と税金」

最近ニュースなどで、税金について問題になっているという事をよく耳にします。私にも税金についての知識は多少あるので、時々考える事があります。税金について、国のえらい方達が考えている様な難しい事はわかりません。ですが、中学二年の私が率直に感じて、考えている事があります。

日本の、ほとんどの物や、施設が税金で支えられています。私は知っています。私の身近な所では、まず、小学校・中学校へ通っている事や、その中の教科書も税金でまかなわれています。このように、まだ働けない子供や、年

で働けないお年寄りの方などが、働く事の出来る人達に支えられて生活できています。そして、しっかりと税金を納めてきた人達はその次の世代の人達の収めた税金により、安定した暮らしや生活を保障されます。それは大変昔からあった制度で、とても素晴らしいと私は思いました。なぜかと言うと、「支えられる人」、「支える人」が共存し、いつの時代になっても変わらない、お互いに助け合う事の出来る仕組みだからです。このような連鎖が続

いてきたからこそ、今の平和な日本の社会や私たちの暮らしが成り立っているのだと私は思っています。ですが、平和とは言っても、日本という国が今、色々な面で良くない状況にある事は確かです。その中の問題の一つに「税金」も含まれています。少子高齢化や、世界問題などにより、税金を上げなくてはならない状況になってきています。そうした中で私がニュースを見ていた時、「税金が上がるのは嫌だ」「困る」などといった意見が多くありました。でも、私は「それは少し変じやないかな」と思いました。私は働いた事もないし、生活費について悩んだ事もないけれど、自分が元気に不自由なく生活出来ているのは、少なくとも「税金」を納めるという制度があったからだと思います。自分の事だけを考える

のではなく、「税金」がなくなってしまうたら……と考えるべきだと私は思います。しかし、税金が上がることでよって生活が苦しくなる人や、生きていく上で困ってしまう人が大勢います。これからの未来に誰もが幸せになれる税金はないのでしょうか？私達は「税金」という言葉をきいただけで難しいイメージをしてしまいがちです。でも、税金は私達にとつて意外と身近な所に存在します。それは、汗水流して働いた証、そして、この国の誰もがいつの時代になっても幸せに、豊かに暮らすこと出来る素晴らしい仕組みなのだと私は思います。一人でも多くの方が税金についての関心や理解を深め、この日本という国をさげなす発展へ、そして誰もが幸せに暮らすこと出来る社会を目指して。 ※原文のまま掲載



Sasaki Yumi
中川根中学校2年生。学校では音楽部（吹奏楽）に所属し、トランペットを担当。部員は3人だけだが、毎日の練習は欠かさない。本号巻頭で紹介した成人式では学生ボランティアとして参加、裏側から式を支えた。「成人式は2年連続で参加しています。こういう催しの雰囲気が好きなんです。」と顔をほころばせた。

このまち、このひと

年末始はせつかくこの町に帰るのだからと実家に帰るのをやめました。そうしたら皆さんが「遊びにおいで」と呼んでくれたり、徳山新年祝賀式に参加させていだいたり、初詣に連れて行ってくれたり……。お正月を大満喫することができました。皆さん本当にありがとうございます。

グなど本町の自然や暮らしを体験し、この町を好きになってもらおうという「人と人」と「人と町」の縁を結ぶ事業でした。今年で3年目ですが、2年目、3年目と連続で参加している人もいます。またいろいろな体験で知り合った人達と講座以外でも交流があるようで、ほぼ毎週来てるのかも？ と思うような人もいます。

元の参加者にはもちろん地元の男性もたくさんいます。この町の男性は消極的だという声をたまに聞きます。確かに口数は少ないのですが、さすが地元の男性！ 畑でくわを持つ力強さやたっくさんの収穫物をそつと持つてあげるやさしさ、夜の交流会でお酒が入ると出てくるおもしろさ、なによりこの事業に参加しよう

と思った積極性が素敵だなとわたしは思っています。「誰かに背中を押される前に、思い切って参加してみませんか？」これはちやつきり娘さん募集広告の一文です。ちやつきり娘は月一回の講座ですが、わたしの「ふるさと協力隊」は一年間滞在型のちやつきり娘養成講座みたいなものだなと思えます。思い切って参加してみたいいろいろな体験・経験をし、たくさんの人に出会い、話しをしながら今わたしがいるんだと思えます。

ちやつきり娘は2月で、緑のふるさと協力隊は3月で卒業を迎えます。昨年6月号から始まった「千江の輪」も来月が最終回。みなさんハンカチのご用意をお忘れなく！

緑のふるさと協力隊員奮闘記 ちえのわ 千江の輪。

chie's ring NO.8



中野千江（なかのちえ）
北海道札幌市出身
緑のふるさと協力隊員第15期生
一緑のふるさと協力隊とは
特定非営利活動法人地球緑化センターが実施している事業の一つ。農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣し、地域の活性化に貢献している。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第1次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、地域全体のための協力活動に取り組んでいる。千江さんは第15期生、川根本町2代目の隊員。



ちやつきり娘養成講座「大札山ハイキング」での一枚
今月の千江's SHOT

入学・進学 婚礼内祝 出産内祝 快気祝 新築記念 カタログギフト 弔事・法要

川根地区 無料宅配！ できる限りのお手伝い致します！ ギフトセンター文化堂